

沖縄総合事務局国営土地改良事業事前評価技術検討会（第二回）議事概要

- 1 日 時 : 平成25年7月18日（木） 10:30～11:30
- 2 場 所 : 那覇地方合同庁舎2号館2階 D・E会議室
- 3 対象地区 : 国営かんがい排水事業「石垣島」地区
- 4 委 員 : 井口 千秋 井口税理士事務所・井口行政書士事務所所長
友利 敏子 沖縄空輸(株)代表取締役社長
内藤 重之 琉球大学農学部教授
吉永 安俊 琉球大学名誉教授

5 議 事 :

沖縄総合事務局国営土地改良事業事前評価技術検討会（第二回）を開催し、平成26年度新規着工予定の国営かんがい排水事業「石垣島」地区について、第一の技術検討会の質疑に対する追加説明及びチェックリストに定める各評価項目について審議した。質疑応答の概要は以下のとおり。

（委員）

現地調査時に若い農家が意欲を持って取り組んでいる姿を見て、この事業の必要性を感じた。今後、台風対策と輸送の問題をフォローすることをご検討いただければと思う。

（委員）

農家負担に関連するが、受益農家の中で一番多く農地を耕作している農家の面積はどれぐらいか。また、公庫から資金を借り受けず、一括で支払っているという話だが、その理由は何か。

（沖縄総合事務局）

手元に詳細なデータがなく正確な数字ではないが、農地面積の多い方で5ha程度だと思われる。公庫の資金を活用しない理由としては、一括で支払う方が負担額が少ないからと思われる。

（委員）

私の地元である宮古地区の農家からも、事業の負担金は大きくないと聞いている。

(委員)

「牛の頭数以上に牧草面積を増やしているのか？」という委員の質問に対して、「石垣市の計画している牛の頭数以上に牧草面積は増やしていない」との回答だが、石垣島の粗飼料の自給率はそれほど高くなく、牧草面積を増加させることは悪いことではないと思われることから、粗飼料の自給率を向上させるために牧草面積をさらに広げる必要がある、との主旨の回答が良いと思う。

(委員)

チェックリストの中に「－」の判定があるがこの意味は何か。これによって評価が低くなるのか。

(沖縄総合事務局)

石垣島地区の事業計画には該当しない項目として「－」としている。「－」や「B」があるため採択されないということではない。「A」の評価が多ければ、熟度が高い地区として配慮されると思われる。

(委員)

農家の高齢化が進む中、農地が荒れたり耕作放棄地状態になっている農地がある一方で、やる気のある若い農家では農地を求めている方々もいるが、耕作放棄地の解消のため支援策はあるのか。

(沖縄総合事務局)

市町村内に協議会を設け、耕作放棄地の解消から土づくり、持続的な営農ができるまでの支援を数年前から実施しているところである。

(沖縄総合事務局)

耕作放棄地の解消は重要課題であり、農林水産省で取り組んでいる「攻めの農林水産業」における生産現場の強化という柱の一つとして取り組んでいるところであり、今後とも強化していきたい。

6 技術検討会の意見

各評価項目については、適切に評価されていると判断される。なお、本検討会で出された意見については、今後の事業の参考とされたい。

以上